

宝塚市清荒神でナガサキアゲハの 春型 1♂ を採集

加藤 信 一 郎

清荒神に生息する蝶目録を整備するため、今年は春先から自宅周辺で観察・採集していたところ、5月9日(土)、昼前、ナガサキアゲハを採集したので報告する。当日の天候は快晴であった。

採集場所は自宅のすぐ裏の側溝沿いの小道で、この辺りは狭い範囲だが、まだカシ、ナラ、クヌギなどの雑木がまばらに残っていて、アゲハなどの蝶道になっており、小道に隣接する民家の庭には、夏ミカン、ダイダイ、キンカンなどが散見される。目撃した瞬間青色鱗が目に入り、一見カラスアゲハに見えたが、「ひょっとしたら」という予感が働いて、すくって見ると果してナガサキアゲハであった。

採品は春型の1♂で異常個体である。左翅は前翅長65mmで正常だが、右翅は前翅長約47mm、中室外方から翅頂にかけて発育不全で伸び切らず、又その部分は鱗粉を散布しない。サイズはやや小振りであり前翅基部に赤斑を欠くが、翅表裏の地色・斑紋は宮崎、大分産春型と比べて差異は見られない。

宝塚市では1955年8月23日にファミリーランドで1♀の採集記録があるのみで(日浦, 1977, Nature Study 23巻12号)、実に26年振りの記録となる。東進を続けている本種の兵庫県東部・大阪府における今までの記録は凡て夏型であり、春型は1977年5月6日に堺市で採集された1♀に止まる(日浦, 1977, Nature Study 23巻12号)。

ところが今年に入って日浦氏の手元にも大阪府下能勢の初谷などで採集された報告が寄せられている。これらの記録から見て、昨冬のきびしい寒さにも拘らず蛹化状態で越冬したものと推測され、宝塚市とこれに隣接する地域での定着化の可能性は大きく、今後の調査が期待される。

ミドリヒョウモン雌暗灰緑色型 の採集例

松 本 健 嗣

1954-V1-25 神戸市長田区一里山町

筆者採集、同定者 日浦 勇

中国山脈にしばしば現われると云う型で、採集地は草原+低雑木林であり、本種はごく少ない。新鮮